

# ご しょ だい こ かりがね護所太鼓



第 15 回



かりがね祭り 10月 5 日(日)



「かりがね護所太鼓保存会」は、最初は大人たちが地区の夏祭りのときに太鼓をたたこうと、同好会として昭和五十五年に始まり、五十八年から子どもたちをメンバーにして育成保存会となりました。来年は、発足二十周年を迎えます。

現在の会員は、小学校一年生から中学校三年生までの三十一人。子どもたちは岩松・岩松北地区だけではなく富士駅南地区など、ほかの地区からも参加しています。

練習は毎週金曜日の夜、護所神社の隣にある橋下公会堂で二時間くらい行っています。子どもたちはまず太鼓の前に正座し、黙とうの後練習を始めます。

演奏する曲は、地域に伝わる昔話「かりがねの人柱」や富士川など、地域にかかわる事柄をもとにしたものなど、八曲あります。それらの曲は、すべて保存会でつくったオリジナル曲です。

主な活動は、かりがね祭りと富士まつりでの演奏。そのほかにも県外へ遠征したり、結婚式や祝賀会に招待されたりと、発表の場を広げています。

ことしの五月から、岩松中学校でも二十六人の生徒に、週一回太鼓を教えています。保存会の子どもたちもそうですが、太鼓をたたきたいという子は、とても素直だなと感じます。

子どもたちは自分から太鼓をやりたいと思い、参加してきます。親がやらせたいからと言って始める子どもは長続きしません。ですから、保存会には太鼓の好きな子が集まっています。

子どもが大きくなったとき、太鼓を頑張ったとか、楽しかったとか、今感じている気持ちの何か一つでも残ってもらえればいいなと思っています。

今まで保存会で私が太鼓を教えた子どもは、百人以上になります。そのOB・OGを集めて発表会をすることが私の夢です。



かりがね護所太鼓保存会会長  
ともひで 中尾 朝英さん (松岡)

## こちら編集室

被爆57周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参加した。8月9日11時2分、射すような日差しに耐えながら「黙とう」…。57年前のこのとき、長崎に原爆が投下された。数千度の熱線と猛烈な爆風が襲いかかり、一瞬のうちに街は廃

墟と化した。多くの死傷者を出し、被爆者たちは今でも白血病やがんなど、死の恐怖におびえている。『しかばねの重なる中を焼けただれまだ命ある友を運びぬ』ことしの遺族代表の平和の誓いの歌がいつまでも耳に残っている。

人 口 242,240人 (前月比+196)  
男 120,602人 (+84)  
女 121,638人 (+112)  
世 帯 83,737世帯 (+131) 8月1日現在  
編集・発行 富士市総務部広報広聴課  
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100  
☎51-0123(代) ㊚51-1456

